

# 米農家の一年

厚生連高岡病院 上野剛志

早春の風が心地よい季節となりました。

我が家は農家です。稲作については、あまり馴染みがない話かと思しますので、米ができるまでの道のりを紹介させていただきます。

## 【春】4月～6月（最も忙しく、重要な時期）

- ・種まきと育苗：種もみを水に浸し、発芽させてから種まきし温室で苗を育てます。
- ・田おこし：冬の間にな固くなった土を耕し、地中へ空気を通します。
- ・しろかき：田んぼに水を張り、土を細かく砕いて平らにします。（下地作り）
- ・田植え：育った苗を田んぼへ植えます。田植え後は、厳重な水管理が必要となります。

## 【夏】7月～8月（梅雨から夏にかけて、稲は太陽の光を浴びてぐんぐん成長する時期）

稲が快適なように環境づくりが重要となってきます。

- ・水管理：稲の成長に合わせて水を調節します。
- ・草刈り：草刈り機を用いて田んぼ周囲のあぜ道の草を刈ります。病害虫を寄せ付けないためにも大切な作業です。（稲に影響がないように除草剤を使用することもあります）
- ・追肥：稲の色の変化（葉の色調）を観察し、必要に応じて肥料を追加投入します。

## 【秋】9月～10月（田んぼ一面が黄金色に輝き、稲穂が首を垂れる時期）

- ・稲刈り：機械（コンバイン）も用いて刈り取り（脱穀）をします。  
稲刈りは雨が降るとできないので、天候との戦いとなります。  
またコンバインは高級車なみに高いので、壊れると泣きます。（300～2000万円）
- ・刈り取ったコメは乾燥機で水分調整され、脱穀後によく「玄米」となります。

## 【冬】11月～（収穫後の仕事）

- ・土壌作り：来年に向け、堆肥をまき、稲わらをすき込み栄養豊かな土壌を作ります。
- ・機械のメンテナンス：洗浄や整備（時には修理）を行い来年に備えます。

以上となりますが、1年の大半は田んぼと戯れている感じとなります。

米を育てる上では、自然（天候、気温）との戦いも強いられます。

また、米は漢字にすると「八十八」に分解できます。

これは、米ができるまで「八十八の手間」がかかることを示すといわれています。

実際に、大変手間がかかりますが、稲の成長のスピードには毎年驚かされています。